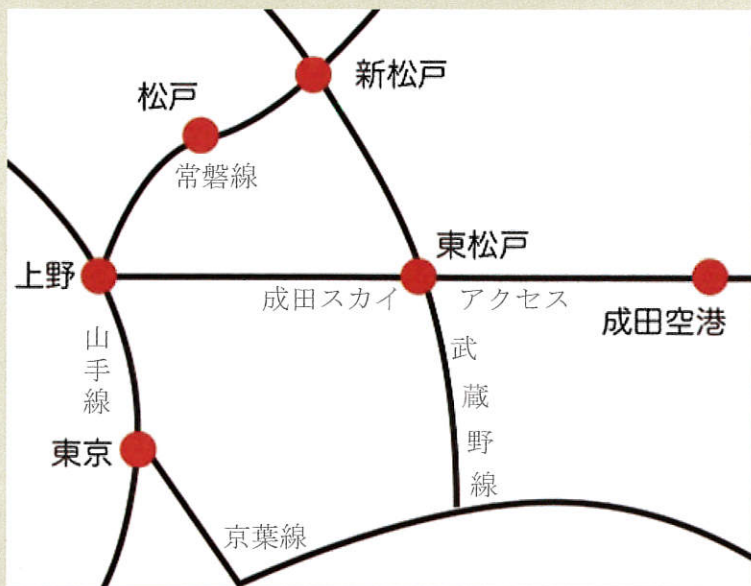


KEY POINT #02: 鉄道の整備状況



平成26年度にはJR常磐線の東京駅への直接乗り入れが開始する予定であり、松戸駅を中心とした常磐線沿線の都心アクセス向上が期待されます。

また、既に敷設されている武蔵野線・成田スカイアクセス線により、東松戸駅は成田空港・東京駅ともに1時間圏内という恵まれた状況となっており、松戸市の発展のための有効活用が望まれます。

まずは、松戸駅前から
「新しい松戸市」を目指して

石井 鉄道に目を向けると、やはりJR常磐線です。平成26年度にJR常磐線の東京駅への乗り入れが始まるとお聞きしています。そうなれば利便性はもちろん、松戸市の人口増加にも繋がるのではないかと思います。

渡辺 JR常磐線については、現在上野駅から東京駅を直接接続するように工事を行っており、平成26年度には乗り入れが開始される予定です。

石井

この事も一つの起爆剤となり、松戸駅周辺では今、まちづくりに向けた協議がはじまったところですね。私も9月の議会で一般質問させていただきました。この質問について、「六実出身の議員がどうして？」とよく言われるのですが、まずは松戸駅周辺のブランドが高まり松戸市の財政が向上していかないと、六実の再開発は夢のまた夢、つまりまずは松戸駅が元気になってもらわないといけないと思っています。この件については松戸市・付近住民が一体となり、色々な試みを考えているようで、私も応援していきたいと考えています。でも、地域の人々が集まっ

ただけでは、どうしても資金面の問題などから、建物や道路など「ハードの開発」には着手できないのが実情です。ただ、この協議を進める中で、国の社会資本整備総合交付金を利用できる方向もあるという事が分かりました。この場合、松戸市も本腰を挙げて抜本的な松戸駅周辺のまちづくりビジョンを描けるようになります。



渡辺 松戸駅の東口・西口です。ね。実情を言えば松戸市が民間企業に要望を出しても、なかなか企業も動きづらと思いますし、これはやはり国が協力する必要があります。その際、重要なことになってくるのは、松戸市がどういう特色を出していくかという事です。

例えば松戸駅に目を向けますと、確かに北千住まで10分、上野まで20分、都内にアクセスするためには、とても利便性の高い駅だと思います。でもその反面、それが地域商業の活性化を妨げているという見方もあるのではないかと思います。そこまで近いの

石井 だから、買い物は都内でしてしまおうと。都内に泊まってしまおうと。そう考える方も多いのではないかと思います。ですから、松戸が活性化に向けて動いていくのであれば、ただホテルを誘致しよう、商業施設を誘致しよう、単独で考えるのではなく、松戸駅に人が来る必然性ができていかないとけないと思うのです。

渡辺 そうなんです。あれが欲しいこれが欲しいというだけではなく、「住みたいと思ってもらえるために、どのようなまちにしていきたいか」という、差別化のできるビジョンを作っていくかといけないと思うのです。

石井 教育機関に目を向ければ、松戸市は聖徳・千葉大園芸学部・日大歯学部・流通経済大を抱えており、これだけ若者が集まる素地ができていのに、それをうまくネットワークできていないのは、非常にもったいない事です。

例えば、東松戸駅は羽田空港からも成田空港からも1時間圏内にあります。さらに、東京駅へも1時間以内で行ける。こう考えると、この東松戸という駅は途方も無い可能性を秘めているわけですね。

(裏面に続きます)